

vol. **03**

ワイン プロジェクトから 広がる夢

Nagai Farm Business Style Note

永井進の 農場スタイル ノート

永井 進

Nagai Susumu

1971年、長野県生まれ。
(有)永井農場専務取締役。長野
県東御市で酪農と稲作の複合
経営に取り組みながら、従来
の大規模化とは異なる農場発
展の可能性を模索している。
<http://www.nagaifarm.co.jp/>

前

回は、コメや牛乳といった既存資源を磨き直す取り組みについて触れました。闇雲にスケールメリットを追って規模拡大するのではなく、今あるものの魅力を高めていくという考え方です。転作による土地利用型農業もありますが、僕たちの圃場条件は、残念ながら麦や大豆の生産には向いていません。もし取り組むとしても、たとえば豆腐に加工するなどの工夫が必要になってくるのでし

よう。あくまでも原料生産ではなく、最終的な商品作りまでを視野に入れ、地域の条件に合った作物を育て続けていくことが大切だと思っています。そのような意味では、この地域は果樹栽培に向いているというメリットがあります。南向きの河岸段丘で日照時間が長く、年間降水量が800mm程度の乾燥した気候なので、特にブドウの栽培には非常に適しているんです。近年の温

暖化の影響もあって、すでに山梨に負けないくらいに適地になっているとも言われています。

生食用の巨峰は、祖父の代から40年くらい作ってきましたが、これとは別に、2006年から醸造用のブドウ栽培もスタートしています。将来的にはワイナリーを作るつもりで、ワインプロジェクトを進めているところです。

きっかけは、作家の玉村豊男さんの出会いでした。玉村さんは





荒廃農地を開墾するところから始まったワインプロジェクト。1年目は白ワイン用の「シャルドネ」を1ha植え、2年目には赤ワイン用の「メルロー」などをさらに1ha作付けた。3年目となる今年も、1haほど増やす予定だ。

信州に移住して農園を拓き、今ではワイナリーやカフェレストランまで手がけている方です。僕が就農した頃、玉村さんの講演をお聞きする機会があったのですが、それまで僕が漠然とイメージしていたことを理路整然とお話しされていて、感動を覚えました。その玉村さんが自らブドウを育て、ワイン作りに取り組みまれている様子を見て、「こんなことがあり得るんだ！」と大きな刺激を受けたのです。

それから10年以上が経ち、山手の斜面にある果樹園を永井農場で引き受ける話が持ち上がりました。隣の地区の方がやってきて、「県で整備したリンゴの園地があるんだけど、作り手が高齢化して荒れてきてしまった。このままでは畑が全部山になってしまいうから、永井さんのところで何かやってくれないか？」と言うのです。

同じ地区内であれば、永井農場の存在はなんとなく知られていますが、隣の地区の人たちが頼みにきてくれたことには感激しました。しかも、なんと10haもの規模があるというから驚きです。

せっかく地域の皆さんからの期待を受けて、じゃあ何をやるのかという時に頭に浮かんだのが、醸造用ブドウでした。なにしろ面積

が10haもありますから、芸術的に仕上げる生食用の巨峰なんて手に負えません。醸造用のブドウならば、農地としての管理もしやすいですし、何よりワイン作りという事業が地域の条件に合っているのではないかと思います。

もちろん、ワイン作りには専門の技術や人材が必要です。幸いにして、大手ワインメーカーで醸造責任者だった今のプロジェクトリーダーと出会うことができ、そこからはとんとん拍子で話が進みましました。荒廃した園地は少しずつ開墾し、1年に1haほどのペースでブドウの苗を植えています。ワイナリーに対応するには3〜5haのブドウが必要になってくるので、それに間に合うように準備しているところです。

苗の生長は意外に早く、昨年にはわずかながら実をつけてくれました。まだ僕たちには醸造設備がありませんので、玉村さんのワイナリーでそれを仕込んでいただき、今年の春先にはファースト・ヴィンテージができる予定です。今回のワインはボトルにして250本ほど。まずはこれまで応援してくださったファンの皆さんに試飲していただく分がほとんどでしょう。来年は1000本近くができる見

込みです。その時にはきちんと販売できればと思っています。どんな仕上がりになるのか、僕自身も楽しみます。

ワイン作りという事業は、実際にやり始めてみてから、先の長さに気後れることもあります。5年くらい経つてようやく回り始めるということになると、その間の資金繰りをどうしていくのか、どんな人たちに応援してもらおうのか、非常に大変な課題が山積しています。それらにきちんと取り組んでいくためにも、ワインプロジェクトを独立した事業として、永井農場からリリースすることも検討中です。

僕たちには、農場作りのコンセプトのひとつとして、百年後もこの地で元気に農業を続けていきたいという思いがあります。今回のプロジェクトは、先々の世代にわたってワインを作り続けることのできる環境を整え、地域にワイン文化を根付かせる役目もあると思っています。きちんと手を入れた農村の風景の中にブドウ畑が広がり、その畑を見渡せるワイナリーでグラスを傾ける。そんな豊かな生活が訪れ、そしてそこからさらに夢が広がっていくことを楽しみにしています。